

# 繁藤月報

〒789-0583

高知県香美市土佐山田町平山1748

## 天理教繁藤大教会

TEL 0887-57-9207 / FAX 0887-57-9246

### 「宗教は思考停止なのか」

「こふきのひろめシリーズ vol.3」

前回の巻頭言において、私は「ワクワクした気持ちで『こふき』を掘り下げていきたい」と述べた。しかし、その営みには大きな矛盾が存在する。それは『こふき』の最大の特長ともいえるものだ。今回は、この矛盾について思案を深めていきたい。

#### ◆プロセスはいらない。早く答えがほしい？

これは、タイムパフォーマンスを重視する現代社会における、切実な欲求の一つだろう。古今を問わず、人生における選択肢の多さは時に迷いを生み、それが必ずしも幸せには直結するとは限らない。「誰かに早く正解を提示してもらって安心したい」と願うのは、自然な心理だ。

昨今のAIの台頭が、その傾向に拍車をかけている。自分で考えずとも、AIに問いを投げれば、より速く、より正確（に見える）回答が得られる。何より「楽ちゃん」だ。

しかし、答えや結果を即座に得ることに、弊害も伴う。

- ・ 映画を観る前に、結末を暴露される
- ・ 悩みを相談したら途中で正論をつきつけ

知られる  
られない間にジグソーパズルを完成させられる

これらは誰もが経験のある「興奮め」ではないだろうか。どうやら物事には、決して飛ばしてはいけない「プロセス」があるようだ。

#### ◆「やってあげる」の弊害

私は現在、三児の父である。子どもが困っている姿を見れば、つい手を差し伸べたくなるのが親心というものだ。だが建前は置いといて、場合によっては「（親として）こちらがやってあげた方が楽だ」というのも正直ある。子ども「なんで？」に真正面から向き合うには、相応のエネルギーと時間が必要だからだ。

しかし、親が先回りして答えを与え続け、子どもが受動的な状態に慣れてしまうことの悪影響は、想像に難しくない。主体性、自律性、そして失敗を乗り越える粘り強さ…。挑戦や試行錯誤の機会を奪うことは、それらの成長の芽を摘むことに他ならない。

これは教育や育成の全般にいえることだろう。悩み、苦しみ、悔しさを乗り越えて自ら掴み取ったものこそが、真に自身の血肉となるのだ。

#### ◆宗教は「思考停止」を招くのか

翻つて、宗教について考えてみる。宗教における「答え」とは、いわゆる教義（教え）である。





その確定した答えがあるがゆえに、「宗教は思考停止であり、盲目的だ」とマイナスの印象を抱く人もいる。

言われたことを信じなければならない：

教え通りに生きなければならない：

といった抑制的なイメージだろう。しかし信仰の本質は、既成の答えをなぞることだけではないと私は考える。

もちろん、教義を恣意的「※1」に曲解してはならない。だが、真の信仰とは教義をあたかも「不可侵なもの」「※2」として扱うことではなく、もつとダイナミズム「※3」あふれる営みではないだろうか。

教義を手がかりとして、「自分」「神」「救済」「社会」、そして「真理」と双方向に向き合い続ける。それは思考停止どころか、あくなき探求心と精神的な力強さを要するプロセスなのである。

#### 「※1」恣意的

∴ 明確な基準や合理的な理由ではなく、個人の都合や主観に基づいて判断・行動すること。

#### 「※2」不可侵

∴ 決して侵すことができないこと。触れてはならないこと。

#### 「※3」ダイナミズム

∴ 物事が持つ力強さ、エネルギー、あるいは動的な変化や構造

### ◆『こふき』のはじまり

さて、いつもながら前置きだけで紙幅が埋まりそうなので本題に入ろう。

天理教には三つの原典が存在する。

- ・ 教祖が自ら筆を執って記された、書き物である『おふでさき』
- ・ おつとめの地歌として、教えられた『みかぐらうた』
- ・ 教祖ならびに本席様による口述の教えを筆録した『おさしづ』

これらは固まったテキスト（言葉）として現代に残されており、解釈の余地はあっても、書き換える（編集する）余地はない。

しかし、『こふき』は性質が異なる。天理教事典ではこう説明されている。

明治13、14年頃から教祖は、折をみて、「取次」（とりつぎ）と呼ばれた側近の人々に対して、あるまとまったお話を聞かされた。このお話が今日「こふき話」と言われるものである。

明治14年の頃、教祖は、側近の人々に「こふきを作れ」「※A」、「こふき話を書いて出せといわれた」「※B」のである。

教祖から提示されたものを、あえて人間に「作れ」と促す。これこそが『こふき』の最も大きな特性の一つだと私は思う。

「※A」『稿本天理教教祖伝』157頁

「※B」高井猶吉談、『ひとことはなし その三』61頁

## ◆「こふきを作れ」の目的

現存する「こふき話」の内容には今回触れないが、これらは作成した者によって文章形態も大きく異なり、ニュアンスをはじめ内容にも違いがある。神様ではなく、人間につくらせたという証拠ともいえよう。

そして、『こふき』をあえて人間につくらせた目的は何か。これは前回紹介した「こふきの研究」において、二代真柱様はこう述べられている。

『こふき』の目指されている目的ともいえるべき廉を窺ってみますと、『こふき』の内容を、単に発表されているばかりではなく、「取次」養成を意圖されているのであります。

(「こふきの研究」より)

同様に、『おふでさき』でもこうお示しくださっている。

しんぢつにこの元さいかしいかりと  
しりたるならばどこいいたとて

(十号48)

(十号48 註釈) 真に親神のこの世人間創造の真実が心に治まりさえしたならば、どこへ行っても、おめ恐れも無く安心なものである。

このはなしなんともふてきいている  
これとりつぎにしこみたいのや

(十号49)

(十号49 註釈) この話を何と思うて聴いているか、これを取次の者達に、しっかり仕込みたいからである。

最初から完成品を与えるのではなく、人間に考えさせ、やらせてみせる。そこには、人間を成人させようという親神様の深い教育的意図がある。

## ◆やはり『こふき』はワクワクしながら

冒頭に「プロセスを飛ばしてはいけない」と書いた。先日、我が子が遠足に行つたのだが、一番ワクワクしていたのは前日の準備中だった。遠足先の風景を事前に動画で見せたり、時短のために車で送迎したりするのは、あまりにも野暮というものだろう。

にち／＼に神のはなしをたん／＼と  
きいてたのしめこふきなるぞや

(三号149)

(三号149 註釈)

日々はこの真実な親神の話聴いて喜ぶこの話こそいつまでも変わる事なく、永久に世界たすけの教えとして伝わるべきものである。

旅行も、勉強も、そして信仰も、そのプロセスを楽しむ気構えの中にこそ「値打ち」がある。

親神様は取次、私たちを育てるために、そして私たちが信仰のプロセスを楽しむために、あえて「余白」を残されたのではないだろうか。そう考えると、その親心は果てしなく深く、温かいと感じるのは私だけではないはずだ。

次回は、ようやく『こふき』の内容に入っていく予定なので、楽しみにお待ちいただきたい。

立教一八九年五月一日

天理教繁藤大教会

坂本輝男



《主教百八十九年四月 月次祭祭文》

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教繁藤大教会長坂本輝男慎んで申し上げます。

親神様には、「これまでにない事ばかりゆてきかし しんじつよりのたすけするそや」と、この世初まり以来、説き明かされたことのない元の理を始め、真実の親の御心をお明かし下され、世界一列のたすけをお進め下さいます尊い御守護の程は、誠に有難く勿体ない極みでございます。私共は及ばぬ乍らも思召に添わせて頂けるよう日夜御恩報じを思い念じて勇んでつとめさせて頂いておりますが、その中にも今日の良き日は、当教会にお許しいただいた御祭日で御座いますので、只今より、おつとめ奉仕者一同、座りづとめ、てをどりをつとめて、四月の月次祭を執り行わせて頂きます。御前には繁藤大教会の名称に繋がるよふぼく、信者達が参来集い、ともにおうたを唱和し日頃賜る篤き御厚恩に拝謝するとともに、去る十八日に御存命の教祖の二百二十八回目の御誕生日を迎えられた御祝いを心に念じ、尚も親心にお縫りして参拝む状をも御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます。

又、本日は、本部准員、本明實分教会長の中山昭悦先生に御巡教頂き、おつとめ後に少年会・縦の伝道講習会として御講話を頂戴いたします。御講話をしつかりを拝聴し、次代を担う幼少年の育成になお一層尽力していく契機とさせて頂きます。

私共を始め教会長、よふぼく一同は、世界のふしんの御用にお使い頂く自覚と喜びを高め、お急ぎ込みくださいますをやの御心に添って、たすけ一条に邁進させていただく決心で御座います。

何卒、真の親の御恵みが、一日も早く世界の隅々に迄行き渡りこの世の埃が払われ、欲を忘れて互いにたすけあう世の状を御守護頂けますようお連れ通りの程を一同と共に慎んで御願ひ申し上げます。

《繁藤大教会 立教百八十九年 四月月次祭祭典役割》

神 殿 講 話	胡 弓	三 味 線	小 琴	太 鼓	拍 子 木	チ ャ ン ポ ン	笛	地 方	女		男		賛 者	賛 者	扈 者	扈 者	指 図 方	祭 主			
									前 大 教 会 長 夫 人	黒 石 伸 子	前 大 教 会 長	田 村 辰 久							大 教 会 長	座 り づ と め	空 閑 慶 吾
縦の伝道講習会	村上美栄子	佐藤文代	佐藤順子	田村久徳	村上英士	藤田憲明	宮田孝道	空閑一教	坂本久徳	黒石伸子	前大教会長夫人	大教会長夫人	田村辰久	前大教会長	座りづとめ	空閑慶吾	立花真一郎	佐藤成彦	村上英士	田村久徳	大教会長
	田村育与	田村睦美	田村純代	佐々木恵	土居道久	藤田一憲	藤田節幸	前田豊	為田基紀	田村美由紀	武市まち子	坂本喜子	高橋道則	伊藤正福	てをどり前半	藤田誠	高橋道則	空閑慶吾	村上由高	田村省悟	佐々木恵
	空閑真理代	阪本喜代子	為田賢子	立花孝一	藤田善典	村上由高	村上修	宮田教一	竹下隆廣	田村省悟	宮田みなみ	村上綾	秋月英希	黒河明大	てをどり後半	藤田誠	高橋道則	空閑慶吾	村上由高	田村省悟	佐々木恵

## 【神殿講話】

5月 藤田憲明

## 【しげとうtameおかえり講話】

5月 空閑慶吾

テーマ「次の塚に向かつて」

6月 黒石伸子

## 【教会長神殿当番】

5月 富久地・赤池

6月 地ノ島・田久生

## 【詰所教養掛】

5月 安部道郎 (前半)

藤田誠 (後半)

6月 坂井博文

## 【詰所事務当番】

5月 宮田教一

6月 秋月英希

## 【ひのきしん】

○本部炊事ひのきしん

5月16～30日 大教会

11月1～15日 別府

○婦人会詰所ひのきしん

5月25日～26日 (垣生2名)

## 【婦人会・少年会・青年会費納入のお願い】

令和8年度の各会費納入を左記の通りお願い致します。

・婦人会 一名称 六〇〇〇円

・少年会 一名称 六〇〇〇円

・青年会 一名称 六〇〇〇円

納入については、各会責任者もしくは会計担当者にお納めいただき、必ず領収証をお受け取り下さい。やむを得ず、詰所事務所にお預けになる場合は、詰所にて預かり証しか出せませんのでご留意下さい。

## 【婦人会】

○御礼

▼ 御赤衣料について

4月18日、教祖殿に「御赤衣料」として御供させていただきました。

御供いただきました皆様、ありがとうございます。

## ▼ 天理教婦人会第108回総会

去る、4月18日本部中庭に於いて「天

理教婦人会第108回総会」が開催されました。式典、支部の集いにご参加くださった皆さま、誠にありがとうございました。

また、皆さまのご協力をいただき、詰所でバザーを賑やかに開催することができました。

なお、収益金は婦人会活動に使わせていただきます。

○みちのだいおはなし会 (5月)

日時 5月26日 (火)

午後1時～2時

場所 東講堂

講師 久保初美 (麴町前支部長)

テーマ 「日々陽気ぐらし」

※託児はありません

○こかん様につづく会

去る4月18日、繁藤詰所にて「こかん様につづく会」を開催いたしました。

当日は、支部長の話、女子青年大会に向けての準備などの時間をもち、集

まった若い仲間同士が充実した時間を過ごすことができました。

ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

○繁藤支部婦人会総会

・日時 6月20日(土) 午前9時開会

・場所 繁藤大教会

・内容 おつとめ 式典 物産店など

※たくさんの方の会員と共に集い、賑やかに総会をつとめさせていただきましよう。

お声がけよろしく願いいたします。

【にをいがけチラシ】

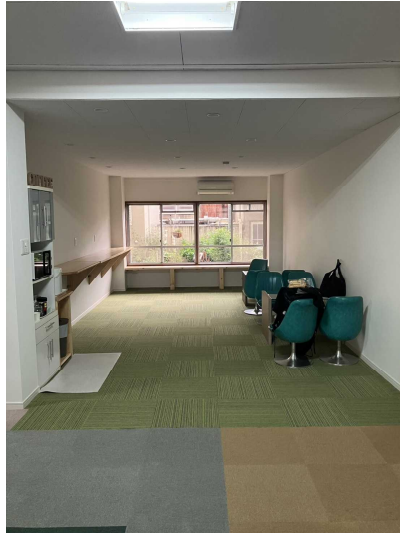
先月より「続・ちよつとひとこと」としてリニューアルいたしました、にをいがけチラシのサンプルを同封いたしております。

現在お渡ししておりますチラシの枚数は、それぞれ申し込みのありました枚数です。枚数の変更や、新たにチラシの送付を希望されます方は大教会まで

ご連絡ください。

【詰所活用委員会】

玄関ホールが広くなりました。ホール前の部屋の壁を撤去し、ホールと続きのスペースを作らせて頂きました。日帰りで参拝にいられた方の休憩や、団らんの場としてお使いください。



【をびや】 3件

